

熊本県教育委員会指定

平成27・28年度 熊本県「生きる力」を育む研究指定校(学力充実研究推進校)

平成28年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業協力校
(通級による指導担当教員等専門性充実事業研究推進校)

天草市教育委員会指定

平成27・28年度 学力充実研究推進校

天草市立本渡南小学校 研究発表会

研究主題

分かりやすい授業づくりを通した 「生きる力」の育成のための実践的研究

分かりやすい
授業づくり

規律・居場所・絆づくり

連続性のある
多様な学びの場づくり

期日／平成28年10月31日(月)

場所／本渡南小学校

日程	9:00	9:30	9:50	10:00	10:45	11:00	11:45	12:45	14:00	14:15	16:00
	受付	オリエンテーション	移動	公開授業①	移動	公開授業②	昼食	授業研究会	移動	全体会	

※昼食時アトラクション：本校吹奏楽部が演奏

天草市教育委員会は、「あまくさの未来を拓く『人』づくり」を基本理念とし、生きる力の基盤となる「確かな学力」を育むことを基本方針に掲げております。昨年度からは「授業にいつでも簡単に教具として活用できるICT」として実物投影機等の全学級への設置や、国から教育課程特例校の指定を受け、小学校第1学年から「英会話科」の学習にも力を入れています。

本渡南小学校は、本市の教育課題解決に日頃から率先して取り組んでいます。

特に、昨年度から学力充実研究推進校として県の指定を受け、学力充実及び特別支援教育の充実を目指した研究及び実践を積み重ねています。

本年度は、昨年度からの研究主題「分かりやすい授業づくりを通じた『生きる力』の育成のための実践的研究」のもと、視点①として「各学年部毎に研究教科等を設定した『分かりやすい授業づくり』」、視点②として「特別支援教育の課題『連続性のある多様な学びの場づくり』」、視点③として「学級経営等の充実を目指した『規律づくり・居場所づくり・絆づくり』」を設定して実践的研究に取り組んでいます。

本日は、英会話科や道徳等の7つの教科・領域で9つの授業公開をします。ご参会の皆様のご指導を仰ぎ、今後に生かしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

最後になりましたが、ご参会の皆様の教育活動の充実と知徳体のバランスのとれた天草の子どもたちの育成を祈念してご挨拶とします。

天草市教育委員会 教育長 石井 二三男

本校の課題は、学力の二極化です。

この課題を解決するために、特別支援教育の充実を図りながら、「分かりやすい授業づくり」の研究に取り組んでいます。

本年度は、「分かりやすい授業」を展開する上で「指導言の明確化」「学び合いの場の工夫」「板書の構造化」の3つの重点実践事項を設定し、学校総体として授業改善に取り組んでいます。

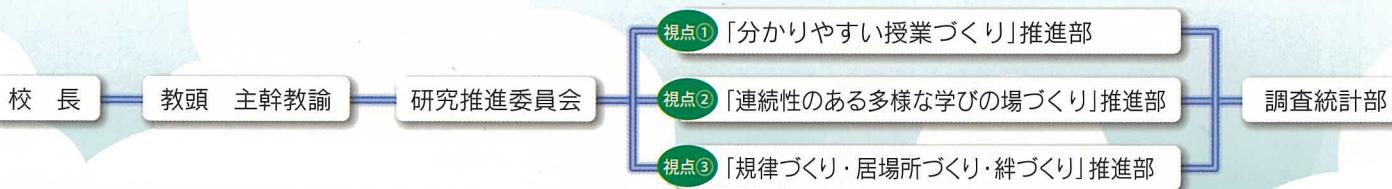
特別支援教育の充実の視点からは、連続性のある多様な学びの場の構築に努めています。校内では、通常の学級、通級による指導、特別支援学級のそれぞれの教育課程の違いを明確にした取組、校種間では、中学校区の関係する24の幼・保、小、中、高のそれぞれの入口と出口である進路をテーマにした取組を行っています。さらに、支持的風土の学級づくりや児童一人一人の自己肯定感を高めることを目指した「規律づくり・居場所づくり・絆づくり」にも取り組んでいます。

本日は、通常の学級6学級、特別支援学級の2学級、通級指導の1教室で授業を公開します。ご参会の皆様からご指導やご助言をいただき、本校の課題解決を図っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

最後に、研究推進に当たり、物心両面からご支援を賜りました熊本県教育委員会、天草教育事務所、天草市教育委員会並びに関係機関・関係者の皆様にお礼申し上げます。

天草市立本渡南小学校 校長 木田 一夫

研究の組織



主な研究の経過

※平成28年度(2年次)

月	日	曜	内 容	月	日	曜	内 容
4	13	水	前年度の取組を踏まえた今年度の取組の計画	7	22	金	校内研究推進委員会
	14	木	道徳の時間のオリエンテーション提案授業		27	水	不祥事防止研修（ボトムアップ研修）
	27	水	本年度校内研修の概要（テーマ・仮説・組織）・指導案について		8	3	水
5	9	月	学年ごとの計画（テーマ・仮説・プラン・授業者の決定）・特別支援教育研修		18	木	校内研究推進委員会
	23	月	学年ごとの計画（テーマ・仮説・プラン）・児童の困りごと実態把握一覧表		22	月	研究発表会までの日程・役割分担・学年部会
	30	月	人権教育研修（児童理解）		31	水	公開授業の指導案検討会・情報教育研修復講
6	1	水	中研①（低…2年3組、高…6年1組）	9	7	水	大研④事後研（2年1組）
	6	月	人権教育研修（レポート発表） 中研①（中…4年1組）		28	水	大研⑤事後研（6年3組）
	22	水	中研②（低…1年2組、中…3年1組、高…5年1組）		10	5	木
7	29	水	大研①事後研（4年2組）		13	木	助言者の先生方との打ち合わせ
	6	水	大研②事後研（3年2組）		26	水	各学年部準備
	13	水	大研③事後研（5年2組）※天草教育事務所 校内研修推進事業		31	月	研究発表会（公開授業9）
21	木	各学年部ごとの夏休みの計画・研究発表会の概要・公開授業の検討（学年部会）	11	9	水	研究発表会の成果と課題	
	木						

研究の構想



生きる力

確かな学力・豊かな心

学校教育目標

知性に富み、かしわば五心を身に付けた
たくましい南っ子の育成
～笑顔の登校 満足の下校～

研究主題

分かりやすい授業づくりを通した
「生きる力」の育成のための実践的研究

研究の仮説

分かりやすい授業づくり
を基盤に学校総体とした
取組を行えば、児童の
生きる力を育成するこ
とができるであろう。



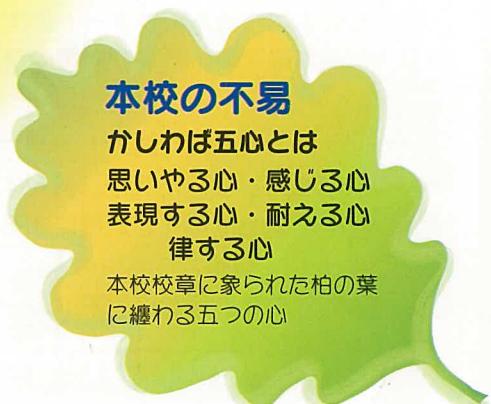
本校の教育課題

- 道徳教育の充実
- 英会話科の実施
- 特別支援教育の充実
- 生徒指導の充実
- 校種間の連携

本校の不易

かしわば五心とは
思いやる心・感じる心
表現する心・耐える心
律する心

本校校章に象られた柏の葉
に纏わる五つの心



組織的・計画的な教育活動



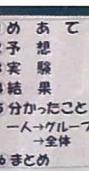
3つのPointで 授業改善！

児童の困りごとを踏まえた
学習指導の展開

①つかむ・見通す



- ①興味を引きつけ、学びのスタートラインをそろえる課題提示
- ②学習の見通しをもたせる手立て



②さぐる



- ③めあてに沿った一人学び

③深める



- ④話し方・聞き方の具体的な提示
- ⑤ペア・グループ・全体の学び合いの場の工夫

④まとめる



- ⑥思考を整理する板書
- ⑦成就感につながる評価

視点①：分かりやすい授業づくり

POINT

1. 指導言の明確化

本校がとらえる指導言の目的

- 発問：課題解決に向け思考を促す
指示：学習活動等の行動を促す
説明：学習内容や方法等を理解させる
評価：既習事項の確認と意欲の向上を図る

1単位時間の指導言のモデル

目標：～を通して、～できる。

学習課程	指導言	ポイント	意図
①つかむ・見通す	評価	・既習事項を振り返り、学習の定着を確認する言葉かけ	焦点化
	説明	・活動の見通しをもたせる学習の流れの提示	視覚化
	発問	・児童の興味を高める課題提示の工夫 めあて：課題を焦点化し、学習の見通しをもたせ、意欲の向上を図る	焦点化
		・1単位時間の学習を貫く一問多答の主発問	
	(発問)	・児童の思考を促す手立てとなる発問	焦点化
	指示	・一人学びの方法等を分かりやすく伝える指示	視覚化
②さぐる	(評価)	・机間指導での本時の目標につながるよさを認め、ほめ、励ますための言葉かけ	焦点化
	説明	・本時の目標を達成するための目的(視点)を明確にした学び合いの説明	共有化
	発問	・児童から出された意見をもとに、更に思考を深めるための発問(ゆさぶり・切り返し・収束・発展等)	焦点化
	(指示)	・児童の発言をつなげる指示(話合いの組織化、授業のコーディネート)	共有化
③深める	評価	・学び合いでの思考の深まりをまとめにつなげるための評価	焦点化
		まとめ：児童とともに本時の学習内容を整理する	
	(評価)	・思考の深まりを認め、ほめ、励ますための言葉かけ	焦点化
④まとめる	説明	・次時の学習内容の説明	共有化

※()の指導言は必要に応じて指導案に位置づける

POINT

2. 学び合いの場の工夫 [考えの共有化]

ペア学習

[低学年]

- ★発表の機会を増やすため(発表が苦手な児童に練習させるため)
- ★お互いの考えを確認させるため(自信をもたせるため)等

基本の流れ

- ①考え方の発表
- ②分からることの質問
- ③聞いたことの復唱

話型の提示

[中学年]

[高学年]

- ★思考を広げたり、考えの視点を変えるきっかけにするため
- ★出した意見を分類し、集約するため等

目的

- ①考え方の発表
- ②分からることの質問

(感想・アドバイス型) (気づき・発見型) (まとめ型)

- ③感想
- ④アドバイス
- ③他の気付き・発見のつけ加え
- ④班の気付き
- ③分類
- ④まとめ
- 発見のまとめ

班編成の工夫
・リーダーの固定→輪番

全体での学び合い

目的

- ★発表した人の考えを共有するため
- ★つまずきを明確にし、解決させるため
- ★友達の考えのよさに気づかせるため

基本の流れ

- ①考え方の発表(困ったことも含む)
[同じ考え方→似ている考え方→つけ加え]
- ②質問
- ③考え方のさらなる比較・分類
- ④まとめ

話型の提示

「考え方の視覚化の工夫
・ICTの活用
・小黒板の活用等

- ★よりよい考えにまとめるため
- ★よりよい考えを全員で探し出すため
- ★考え方(価値)を高め合うため

共有の方法の工夫
○復唱 ○言い換え ○推測
○再現 ○質問 ○分類等

発問の工夫
・焦点化のための発問

まとめ方の系統

教師が児童のつぶやきを拾いまとめる→文型に合わせ児童がまとめる→めあてに沿って児童がまとめる

POINT

3. 板書の構造化

【思考過程が見える板書】

- めあて→児童の考え方・まとめの整合性
- 思考の手がかりや根拠となる板書(既習事項の確認)
- 意図的な児童の考え方の板書(児童の考え方の類型化)
- 思考を整理する板書(キーワード囲み、図式化等)

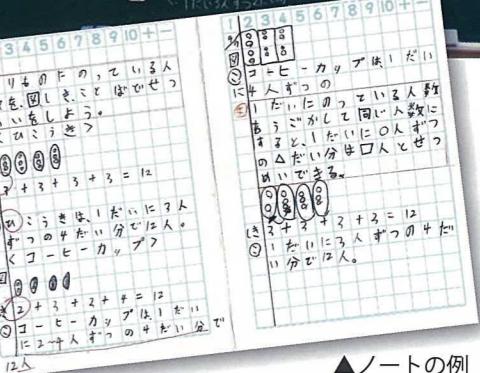
【「視覚支援」としての板書】

- めあてとまとめの赤囲み
- 情報量の調整
- 板書のパターン化

ノート指導に
つながる板書



▲板書の例



▲ノートの例

視点②：連続性のある多様な学びの場づくり

全職員による児童の困りごと実態把握と計画の作成

H28 児童の困りごと実態把握 学級一覧表 (例)		天草市立本渡南小学校		
知的な遅れ	I Q 50 以下 ・天草太郎 (IQ 48)	※熊本県療育手帳判定基準 (知的発達障がい程度) IQ51 ~ 75: 軽度域, IQ36 ~ 50: 中度域に基づき、本校では知的な遅れの共通理解をしている。		
		I Q 51 ~ 75 ・天草次郎 (IQ 55) ・天草三郎 (IQ 65) 天草花子 (IQ 72)		
困りごと		天草四郎	天草五郎	天草南
		IQ100	IQ90	IQ105
発達障がいの困りごと	I 学習障がい	①聞く (・聞き間違いや聞きもらしがある ・指示の理解が難しい ・話し合いへの参加が困難)	○ ○	
	②話す (・言葉につまる ・思いつきままに話す ・わかりやすく伝えることが難しい)	△ △		
	③読む (・読み間違える ・音読が遅い ・要点を正しく読み取ることが難しい)			
	④書く (・読みにくい字を書く ・漢字の細かい部分を書き間違える)	△ ■		
	⑤計算 (・簡単な計算の暗算が難しい ・計算に時間がかかる ・文章題を解くことが難しい)	○		
	⑥推論 (・量の比較や単位の適切な使用が難しい ・図形を描くことが難しい ・早算直や飛躍した考えを示す)			
		【複数の職員で客観的・多面的に把握した困りごとの実態を分かりやすく記号化】		
注意欠陥多動性障がい ADHD	① A.D : 不注意 ・勉強で細かいところまで注意を払わずに、不注意な間違いをする ・課題や遊びの活動で注意を集め続けることが難しい ・学習課題や活動で必要な物をなくしてしまう ・忘れっぽい	△ △		
	② H.D : 多動性・衝動性 ・手足をそわそわ動かしたり、座っているべき時に席を離れてしまう ・質問が終わらない内に出し抜けに答えてしまう ・過度にしゃべる ・順番を待つのが難しい	■ ■		
	③ I.H.D : 自己抑制能症 ①いろいろな事を話すが、その時の場面や相手の感情や立場を理解していない ②会話の仕方が形式的、抑揚がなく話す、間合いが取れない ③とても得意なことがある一方で、極端に不得意なものがある			
		※この実態把握一覧表は、個人情報を配慮しながら、本学級の授業を行う職員が各自持参し、日々の授業で指導、支援に生かしている		
		一覧表により児童の困りごとが明確に!		

記入者【担任、算数少人数、理科専科、音楽専科、通級指導教室担当】 記入年月日 平成28年5月23日

個別の教育支援計画

本渡地区コーディネーター会議の取組



義務教育の入口から出口まで、そして高等学校までを見通して「個別の教育支援計画」をつなぐ。

個別の指導計画



教育課程の編成

学びの場	特別支援学級	通級による指導	通常の学級
学級 (教室)	自閉症・情緒障がい学級 (なかよし1組) 知的障がい学級 (なかよし2組)	LD・ADHD 通級指導教室 (ひまわり教室)	第1学年～第6学年 (各3学級)
教育課程 (H28年度)	●小学校学習指導要領 自立活動 自立活動 日常の生活指導 生活単元学習	●小学校学習指導要領 自立活動 ※小学校学習指導要領を基準にし、特別支援学校学習指導要領を参考にして編成	●小学校学習指導要領 自立活動 〔3人間関係の形成 6コミュニケーション〕を核とした教育課程を編成

学校教育目標の具現化に向けて



特別支援学級支援委員会

※特別支援学級の教育課程編成についての協議

組織の編成・ケース会議の充実

校内通級指導委員会

※通級による指導の教育課程編成と入級から終了までの協議

校内支援委員会

※不登校・問題行動等への対応についての協議

子どもの居場所づくり委員会

※自己肯定感を高めるための取組についての協議

大切

視点③：規律づくり・居場所づくり・絆づくり

目的

- ★自己肯定感を高めるため
- ★支持的風土の学級を作るため
- ★いじめ・不登校の未然防止のため

- 結果ではなく過程をほめる。
- 「偏りなく、タイミングよく、効果的に」ほめる。
- 役割を与え、関わり、ほめる。
- 見届ける。

規律づくり・居場所づくり・絆づくりサイクルの確立

実施把握

- 担任の観察 → 学年部会
- 自分を見つめるアンケートの実施
→ 全職員での分析及び対策の検討会



計画

学年部会「いつ、だれが、何をする」

- ①目標 (めざす姿) を明確にする。
- ②ルール・取組方法を決める。
 - 無理のない分かりやすいルール
 - 視覚化
 - 児童の自信につながる評価方法を決める。
 - 見える評価 ●増える評価

規律づくりプランの例

①めざす姿

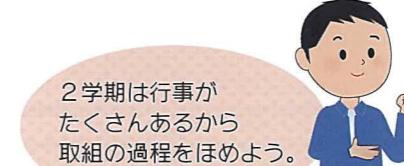
「1分前着席」

②ルール・取組方法

- ・1分前に着席し、次の時間の準備をして座る。(ノートに日付まで)
- ・黒板係が「1分前、ノートに日付」というカードを黒板に貼る。

③評価方法

- ・前日や前時からの変容をほめる。(係の児童・全体)



居場所づくりプランの例

①めざす姿

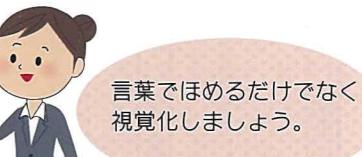
「1日の終わりをみんな笑顔で終える」

②取組方法

- ・帰りの会のプログラムに児童同士でほめ合う場を設定する。「ほめ言葉のシャワー」「今日の宝物」等

③評価方法

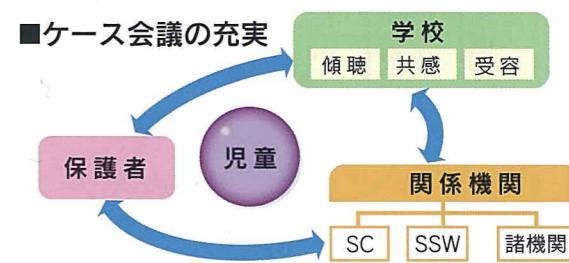
- ・帰りの会での担任からのほめ言葉(個の成長、学級としての成長)
- ・学級通信で紹介



規範意識の高まり

共感的人間関係の高まり

■ケース会議の充実



成果と課題

視点①：分かりやすい授業づくり

○学校総体として「分かりやすい授業づくり」に取り組んだことで、熊本県学力調査における意識調査【グラフ1】から児童の学ぶ意欲は県平均に比べ高くなっていることが分かった。

また、NRT標準学力検査の結果【グラフ2】から学力の二極化傾向が緩和されてきたことが分かった。

○指導言の明確化を図ることで、解決への見通しをもって学習へ意欲的に参加できる児童が多くなった。

また、教師の発言が精選され、授業の流れがスムーズになり、児童が主体的に学ぶ時間の確保ができるようになった。

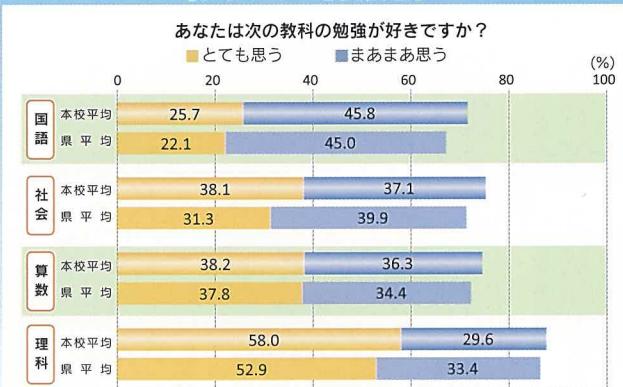
○板書の構造化により、思考過程が可視化され、学習内容や学習方法のノートへの整理がスムーズになった。

○研究する教科・領域を広げたことにより、教育課題解決に向けて授業改善を中心に広い視野から取り組むことができた。

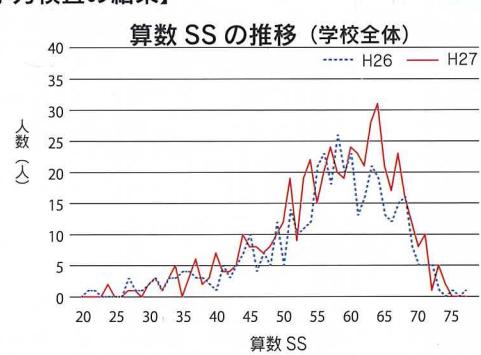
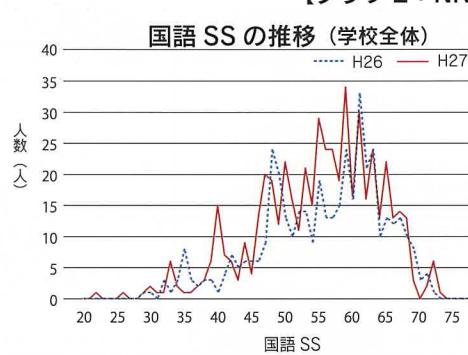
●学び合いの場の工夫にお

いては、ペア・グループ・全体へと学年に応じた共同解決の場が確保されるようになってきたが、学習を深める話し合いの定着までは至っておらず、さらに研究を継続していく必要がある。

【グラフ1：意識調査】



【グラフ2：NRT標準学力検査の結果】



視点②：連続性のある多様な学びの場づくり

○校内での通常の学級、通級指導教室、自閉症・情緒障がい学級、知的障がい学級の特質と役割を明確にした学級編制と教育課程編成を確立したことで、児童の実態に応じた学びの場で学習することができるようになった。

○幼・保、小、中、高のそれぞれの入口と出口としての進路を共通テーマとした連携を行うことで、個別の教育支援計画等の引継ぎによる長期的支援体制を整えることができた。

○発達障がい等への教育課程の違いを踏まえた相談体制を組織的に構築することで、児童の実態に応じた学びの場の選択ができるようになった。

●個別の教育的ニーズに応じた合理的配慮については、組織的・計画的な取組が充実してきたが、広く校外へも啓発していく必要がある。

おわりに

本校は、平成27・28年度熊本県教育委員会、熊本県「生きる力」を育む研究指定校（学力充実研究推進校）及び天草市教育委員会、学力充実研究推進校の指定と本年度は新たに熊本県教育委員会の特別支援教育に関する協力校としての指定を受け、教科及び道徳、そして、特別支援教育の研究に取り組んでまいりました。それは本校の課題である学力の二極化等の問題を解決したいという強い願いからです。子どもが多くの時間を費やすのは授業であり、学習内容の理解が深まれば、学校生活は充実したものとなります。児童の目標である「笑顔の登校、満足の下校」につながるものと考えます。そのためには、「熊本の教職員像」に示された学習の実践的指導力が不可欠です。

本日、2年にわたる研究の一端を公開いたします。ご参会の皆様からのご意見・ご助言を研究の改善点として生かしてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、これまでご指導、ご支援を賜りました熊本県教育委員会、天草教育事務所並びに天草市教育委員会、その他関係各位に心より感謝申し上げます。

視点③：規律づくり・居場所づくり・絆づくり

○学年部または全職員でめざす姿を明確にし、同じ方法で取組を進めたことにより、学習規律を身に付け、落ち着いた生活を送る児童が増えている。

○教師が児童の取組過程を具体的にほめたり、友達のよさを認め合う場を設定したりしたことで、自己肯定感を高め、共感的な人間関係を築く姿が見られるようになった。

○組織的な対応をするために、生徒指導面での窓口を明確にし、校内支援委員会を整備したことで、関係者及び関係機関との相談・連携体制が整った。

●学校総体としての取組の重要性を共通認識できたので、今後さらに組織的な取組を進めていく必要がある。